

# 世界史

(問題)

2019年度

〈H31133421〉

## 注意事項

- 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 問題は2～8ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- マーク解答用紙記入上の注意
  - 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
  - マーク欄にははっきりとマークすること。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。また、マークシートに消しゴムのかすを残さないこと。

|         |                                     |                          |                          |
|---------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| マークする時  | <input checked="" type="radio"/> 良い | <input type="radio"/> 悪い | <input type="radio"/> 悪い |
| マークを消す時 | <input type="radio"/> 良い            | <input type="radio"/> 悪い | <input type="radio"/> 悪い |

- 記述解答用紙記入上の注意
  - 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
  - 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
  - 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

|      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数字見本 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

- 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

|            |   |   |   |   |   |
|------------|---|---|---|---|---|
|            | 万 | 千 | 百 | 十 | 一 |
| (例) 3825番⇒ |   | 3 | 8 | 2 | 5 |

- 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 以下の各設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙の所定欄に記入しなさい。

問1 世界各国の女性参政権に関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア イギリスでは、1928年の第5回選挙法改正で21歳以上の男女に選挙権が認められた。
- イ トルコでは、トルコ共和国を樹立したムスタファ＝ケマルが新民法により一夫多妻制を廃止し、1934年には女性参政権が認められた。
- ウ アメリカの女性参政権運動は、1848年ニューヨーク州で開かれた集会から始まった。
- エ 第二次世界大戦後に女性参政権が実現した諸国には、ドイツ、日本、イタリアなどが含まれる。

問2 公民権運動および公民権法に関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア 1963年8月の集会で、キング牧師は「私には夢がある」と公民権法制定を訴える演説を行った。
- イ アメリカの公民権法は、投票・教育・公共施設利用上の人種差別を禁止した。
- ウ アメリカの公民権運動に参加した女性たちは、独自に女性解放運動を始め、女性の権利意識の向上に大きな影響を与えた。
- エ 1981年に国際連合総会で女性差別撤廃条約が採択され、人種・性的マイノリティに対する差別の撤廃が盛り込まれた。

問3 アフガニスタンに関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア 19世紀以降、イギリス、フランス、ドイツによる干渉が続いた。
- イ 1979年、ソ連は、親ソ政権を支援し、イスラーム原理主義ゲリラを抑えるために侵攻した。
- ウ アメリカのカーター大統領は、ソ連の侵攻を批判し、アフガニスタンの反政府勢力を支援した。
- エ 第3次アフガン戦争を経て、1919年に独立を果たした。

問4 ターリバーン政権に関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア アメリカなどの攻撃により、ターリバーン政権は崩壊した。
- イ ターリバーン政権は、バーミヤンの石仏を破壊した。
- ウ 1996年に行われた総選挙で勝利し、政権を樹立した。
- エ イスラームの戒律を厳格に適用する政策には娯楽、服装、女子教育などに関わる規制も含まれた。

問5 ソ連の指導者に関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア 1985年に書記長に就任したゴルバチョフは、グラスノスチやペレストロイカを推進した。
- イ スターリンと対立したトロツキーは、1929年に国外に追放され、パリで暗殺された。
- ウ 1953年にスターリンが死去すると、マレンコフが首相に就任した。
- エ 1982年にブレジネフが死去すると、アンドロポフが最高指導者の地位に就いた。

問6 欧州の地域統合に関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSG）は、フランスのシューマン外相の提案で1952年に発足した。
- イ 1967年に、ヨーロッパ共同体（EC）が発足した。
- ウ 1973年に、イギリス、アイルランド、デンマークがヨーロッパ共同体（EC）に加盟した。
- エ 1990年に調印されたマーストリヒト条約によってヨーロッパ連合（EU）が誕生した。

Ⅱ 植民地に関する以下のA～Cの文章を読み、各設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙および記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

A ドイツの支配下にあった太平洋の島々の一部は、第一次世界大戦でのドイツの敗北に伴い、国際連盟の委任統治領<sup>a</sup>として日本が統治することになった。しかし、第二次世界大戦における日本の敗北を受けて、これらの島々は国際連合の信託統治領としてアメリカが統治することになった。その信託統治領内にある b 環礁において、アメリカ<sup>c</sup>は1954～1958年にかけて水爆実験を実施した。

問1 下線aに関して、日本の委任統治領に含まれなかったものを次から一つ選びなさい。

ア マーシャル諸島    イ パラオ諸島    ウ カロリン諸島    エ ビスマルク諸島

問2 空欄 b に入る適切な用語を記述解答用紙に書きなさい。

問3 下線cに関して、1954年に放射能汚染を受けた日本の漁船の名前を次から一つ選びなさい。

ア 長門    イ 第五福竜丸    ウ 対馬丸    エ 威臨丸

B 1910年の「韓国併合ニ関スル条約」により、大日本帝国の版図に組み込まれた大韓帝国<sup>d</sup>は、日本の敗戦に伴い、南北に分断されることになった。1948年に南側は、大韓民国として独立し、北側には朝鮮民主主義人民共和国が設立された。分断国家の統一を目指して朝鮮戦争<sup>e</sup>が勃発した。

問4 下線dの出身者に関する記述として誤りを含むものを次から一つ選びなさい。

- ア 創氏改名を強いられた者がいた。
- イ 1941年以降は、大日本帝国軍人にはなれなかった。
- ウ 広島、長崎で被爆した者がいた。
- エ 徴用され、南洋諸島で働いていた者がいた。

問5 下線eに関する記述として誤りを含むものを次から一つ選びなさい。

- ア 大韓民国を支援するために、国連軍が派遣された。
- イ 中国は義勇軍を派遣して朝鮮民主主義人民共和国を支援した。
- ウ 朝鮮休戦協定が結ばれ、現在でも休戦状態が続く。
- エ アメリカのフランクリン＝ローズヴェルト大統領が仲裁を試みた。

C フランス<sup>f</sup>、イギリス、オランダ、ポルトガルなどの植民地で第二次世界大戦中に日本の占領下にあった地域では、独立を求める声が高まっていた。1945年に g は、ベトナム民主共和国の独立を宣言するが、支配の継続を目指すフランスとの間にインドシナ戦争が勃発した。イギリスの植民地であった h はカチン族、カレン族などの複数の民族による連邦として1948年に独立した。同じくオランダからの独立を果たした i では、1955年、反植民地主義を掲げて、平和十原則を決議した j が開催された。その i によって1976年に併合された k は、2002年に国連の支援を受けて独立した。

問6 下線fの植民地（保護領、委任統治領を含む）ではなかったものを次から一つ選びなさい。

ア アルジェリア    イ チュニジア    ウ シリア    エ ルワンダ

問7 空欄 g に入る適切な人名を記述解答用紙に書きなさい。

問8 空欄 h の独立運動の指導者の名前を次から一つ選びなさい。

ア ジンナー      イ アウン＝サン      ウ ガンディー      エ チャンドラ＝ボース

問9 空欄 i の初代大統領の名前を次から一つ選びなさい。

ア スハルト      イ マルコス      ウ カルティニ      エ スカルノ

問10 空欄 j に入る適切な用語を次から一つ選びなさい。

ア アジア＝アフリカ会議  
イ パグウオッシュ会議  
ウ 非同盟諸国首脳会議  
エ コロンボ会議

問11 空欄 k に入る適切な国名を記述解答用紙に書きなさい。

Ⅲ 以下の文章を読み、各設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙の所定欄に記入しなさい。

歴史を研究するうえで、古今東西の商人・僧侶・探検家などが書き残した旅行記は、極めて重要な史料となる。現地で見聞した当時の情報を、われわれに伝えてくれるからである。

古くは、1世紀のギリシア人が書いたとされる『エリュトラ海案内記』には、季節風を利用した当時の海上交通と各地の地理・物産が記される。西洋人の旅行記としては、13世紀のマルコ＝ポーロの東方旅行を記した『世界の記述』(『東方見聞録』)は有名である。彼は陸路で中国に達し、中国各地を旅行して元<sup>c</sup>の時代の港市の繁栄を伝えた。

ムスリム世界の旅行家としては、14世紀のイブン＝バットゥータ<sup>d</sup>が特に著名で、ユーラシア各地の状況を伝えた彼の記録は貴重な史料となっている。

目を中国に移すと、仏教僧侶による求法の旅行記録が数多く残される。古くは東晋の法顕<sup>f</sup>が陸路インドに行って海路で帰国し、また唐の玄奘<sup>g</sup>は往復ともに陸路をとってインド留学を果たした。玄奘は、帰路に立ち寄ったタリム盆地西端のカシュガル<sup>h</sup>について、仏教の隆盛ぶりを記したが、マルコ＝ポーロは同地をムスリムの国として描いた。カシュガルが、玄奘とマルコ＝ポーロの間の時代にイスラーム化したことがわかる。玄奘と同じく唐の義浄<sup>i</sup>は、往復ともに海路をとったので、彼の記録からは当時のベンガル湾や南シナ海の様子をうかがい知ることができる。

近代に至っては、19世紀末から20世紀初めにヨーロッパ諸国の研究者・探検家が中央アジアの探検調査を行い、各地<sup>j</sup>で貴重な遺跡や遺物を発見した。その背景には、当時は帝国主義の時代であり、列強が勢力範囲拡大のためにまだ手付かずの状態だった中央アジアに興味を示した国際情勢があった。

問1 下線aに関連して、書名のエリュトラ海とはどの海域を指しているか。次のうちから一つ選びなさい。

ア 紅海～インド洋  
イ ジブラルタル海峡～大西洋東域  
ウ 地中海全域  
エ マラッカ海峡～東シナ海

問2 下線bに関連して、マルコ＝ポーロの出身地を次のうちから一つ選びなさい。

ア ヴェネツィア      イ ジェノヴァ      ウ ピサ      エ フィレンツェ

問3 下線cに関連して、マルコ＝ポーロがザイトンと呼んだ港市を一つ選びなさい。

ア 広州      イ 杭州      ウ 泉州      エ 揚州

問4 下線dに関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア モロッコ出身の旅行家である。
- イ その旅行記は『三大陸周遊記』とも称される。
- ウ 彼の時代、南シナ海では主にガレー船が使用されていた。
- エ 彼は、アジアでは中国、アフリカではトンブクトゥに行っている。

問5 下線eに関連して、イブン=バットゥータが旅行した時代のインド・東南アジアの状況として正しい説明を一つ選びなさい。

- ア アフガニスタンのガズナ朝が北インドに侵入した。
- イ インドはデリー=スルタン朝の時代であった。
- ウ ジャワ島にイスラーム教のマタラム王国が繁栄していた。
- エ オランダ・イギリス商人の間でアンボイナ事件がおきた。

問6 下線fに関連して、法顕が『仏国記』で「超日王」と記したインドの王を一人選びなさい。

- ア アショーク    イ カニシカ    ウ チャンドラグプタ2世    エ ハルシャ

問7 下線gの旅行に関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア 彼がインド旅行を敢行したのは、唐の太宗が皇帝だった時代である。
- イ 彼が天山山脈北方を訪れたとき、その地域は西突厥が支配していた。
- ウ 彼はインド東部のナーランダー僧院で仏教を学んだ。
- エ 彼は帰路に高昌国で鳩摩羅什の教えを受けた。

問8 下線hに関連して、カシュガルの当時の中国での呼称を一つ選びなさい。

- ア 于闐    イ 龜茲    ウ 疏勒    エ 張掖

問9 下線iに関連して、義浄が滞在して『南海寄帰内法伝』を執筆した国を一つ選びなさい。

- ア アンコール朝    イ シャイレンドラ朝    ウ シュリーヴィジャヤ王国    エ マラッカ王国

問10 下線jに関連して、スウェーデンの地理学者で、中央アジア探検を行い楼蘭の遺跡を発見した人物を一人選びなさい。

- ア スタイン    イ スタンリー    ウ タスマン    エ ヘディン

IV 以下の文章を読み、各設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙の所定欄に記入しなさい。

古代のイベリア半島はローマ帝国の属州であったが、フン族の西進により圧迫され、ゲルマン民族が移動してこの地域に建国した国は、キリスト教文化を発展させた。その後8世紀には、地中海世界に勢力を伸ばしたムスリムにより征服され、後ウマイヤ朝のもとで今度はイスラームの文化が発展した。しかしその後、キリスト教徒のレコンキスタ運動がカステイリャ王国とアラゴン王国を中心に展開され、15世紀末にはイベリア半島南部を支配していた d 朝が滅ぼされ、スペイン王国が形成された。

大航海時代を迎えると、スペインからは多くのコンキスタドールが新大陸の征服に向かい、ラテンアメリカに大きな植民地を形成した。スペインからの植民者たちは、国王が16世紀初めに王令で定めた f に従い、先住民を支配し労働力として酷使したため、本国で大きな批判が起こった。その後スペインは、国王 h の時代にポルトガルを併合し、地中海世界では i でオスマン帝国を破り、ヨーロッパでの覇権を握るとともに、メキシコとフィリピンを領有し、その間では活発な交易も行われ、地球規模での商業国家を作り上げることに成功した。

問1 下線aにあてはまる国を一つ選びなさい。

- ア 東ゴート    イ ヴァンダル    ウ 西ゴート    エ ランゴバルト

問2 下線bに関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア この王朝はハールーン＝アッラシードのときに最盛期を迎えた。  
イ この王朝はコルドバを首都として繁栄した。  
ウ この王朝はウマイヤ朝の滅亡後、その一族が樹立した。  
エ この王朝は11世紀に内戦がおこり、崩壊した。

問3 下線cに関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア アラゴン王国はバルセロナ伯と同君連合となり、レコンキスタを遂行した。  
イ カスティリヤ王国は西ゴートの首都だったサラマンカをムスリムから奪い、都とした。  
ウ スペイン王国は最初、カスティリヤの女王イサベルとアラゴン王フェルナンドが共同で統治した。  
エ アラゴン王国は「シチリアの晩鐘」事件後、シチリアも支配し、強大な海洋国家となった。

問4 空欄 d にあてはまる王朝を一つ選びなさい。

- ア ムラービト    イ ファーティマ    ウ ムワッヒド    エ ナスル

問5 下線eに関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア ビサロがインカ帝国を滅ぼした。  
イ コルテスがアステカ王国を滅ぼした。  
ウ カブラルがマヤ文明を滅ぼした。  
エ バルボアがパナマ地峡を横断して、太平洋岸に到達した。

問6 空欄 f にあてはまる制度を一つ選びなさい。

- ア アシエンダ制    イ エンコミエンダ制    ウ プランテーション制    エ 黒人奴隷制

問7 下線gの批判を行った人物を一人選びなさい。

- ア ラス＝カサス    イ エラスムス    ウ セルバンテス    エ モンテーニュ

問8 国王 h は誰か。以下から選びなさい。

- ア フェルナンド    イ カルロス1世    ウ フェリペ2世    エ フェリペ3世

問9 空欄 i にあてはまる戦いを一つ選びなさい。

- ア アルマダの海戦    イ サラミスの海戦    ウ トラファルガーの海戦    エ レバントの海戦

問10 下線jに関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア この交易はガレオン船を用いたことから、ガレオン貿易とも呼ばれた。  
イ この交易ではアカプルコからマニラへとメキシコ銀が運ばれ、中国商人がマニラに運んだ絹、陶磁器などと交換された。  
ウ 中国の商品がメキシコを経由してスペインに運ばれた。  
エ この交易のためにスペインは、マレー半島のマラッカに海峡植民地を築いた。

V 中国史に関する文章A～Eを読み、各設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄に記入しなさい。

A 紀元前8世紀前半、西方の異民族に都を追われた周は、東方の洛邑に遷都した。これ以後を東周といい、秦の始皇帝が天下を統一するまで、諸侯間に激しい抗争がくりかえされた。<sup>a</sup>この混乱した時代の前期は春秋時代、後期は戦国時代とよばれている。<sup>b</sup>

問1 下線aに関して、秦の始皇帝の治世に関する記述として正しいものを一つ選びなさい。

- ア 咸陽の周辺には郡県制を施行し、地方には皇帝の一族や功臣などを王や侯として配置する封建制を実施した。
- イ 法家の商鞅を登用して政治や行政の改革を行い、郡県制を整備して農業を奨励し、度量衡を統一した。
- ウ 全国を36郡（のち48郡）にわけ、その下に県を置いて郡と県ともに中央から官僚を派遣して統治させた。
- エ 匈奴の冒頓単于からオルドスを奪取するとともに、戦国時代の長城を修築・拡張して万里の長城とした。

問2 下線bに関する記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア 鉄製農具や牛犁耕が発達し、青銅製の貨幣が流通した。
- イ 春秋時代の楚の屈原の詩歌は、『詩経』に収められている。
- ウ 下克上の風潮がひろがり、王を自称する諸侯があらわれた。
- エ 魯に生まれた孔子は、徳治主義による政治を唱えた。

B 漢の武帝は、匈奴に対抗して c を西方の大月氏に派遣して内陸アジアに影響力を及ぼした。またベトナム北部に兵を進めるとともに、朝鮮にも軍を送って直轄地とし、国威を輝かせた。しかし、その治世の後半は増大する軍事費によって財政難となり、さまざまな再建策を施行した。<sup>d</sup>

問3 空欄 c にあてはまる人物を一人選びなさい。

- ア 張儀    イ 張騫    ウ 張陵    エ 張角

問4 下線dに関する記述として正しいものを一つ選びなさい。

- ア 夏と秋に2回徴税する兩税法を実施して、国庫収入を安定させた。
- イ 農民に低利で穀物や資金を貸し付け、収穫時に返済させる青苗法を実施した。
- ウ 均輸法および平準法を施行し、さらに塩・鉄・酒の専売をおこなった。
- エ 5家を隣、5隣を里、5里を党とする三長制を実施して財政の確保をはかった。

C 唐末から五代十国時代の混乱を収めて中国主要部を統一した宋は、地方に割拠して中央から独立する傾向を示す f<sup>e</sup> の勢力を削減し、皇帝に直属する軍団を強化して中央集権的官僚制国家の確立をめざした。しかし、地方の軍事力を弱体化させたことから、周辺諸民族の侵攻をまねき、その対応に追われて深刻な財政難におちいった。

問5 下線eに関して、五代十国時代の説明として正しいものを一つ選びなさい。

- ア 朱全忠が建国した後梁は、唐代に東都とよばれた洛陽に都を置いた。
- イ 江南を支配した南唐では、唐の文化を受けつぐ絵画や文学が発展した。
- ウ 女真族出身の武将が建国した後晋は、援助を受けた契丹に燕雲十六州を割譲した。
- エ 後梁を滅ぼした後唐は、黄河中流域における交通拠点である汴州に都を置いた。

問6 空欄  にあてはまる言葉を一つ選びなさい。

- ア 折衝府    イ 市舶司    ウ 節度使    エ 理藩院

D 義和団事変ののち清朝は、科举の廃止、留学生の派遣、西洋式軍隊の整備など諸改革を実施した。これに対して在外の華僑や留学生、知識人<sup>g</sup>や民族資本家などからなる革命派は、清朝の打倒を目指してさまざまな革命団体を結成した。1905年、孫文はこれらを結集して中国同盟会を組織して三民主義を発表し、四大綱領<sup>h</sup>を掲げた。

問7 下線 g に関して、科举制度の記述として誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア 楊堅は九品中正制度（九品官人法）に替え、学科試験による官吏登用法である科举を創始した。  
イ 則天武后のもとで多くの科举出身官僚が登用され、政治・経済・文化などの隆盛に寄与した。  
ウ 趙匡胤は皇帝自身が試験をおこなう殿試を創始し、皇帝の専制政治体制の確立を目差した。  
エ フビライは華北を支配すると科举を採用し、多くの官僚を登用して漢人や南人を統治した。

問8 下線 h に関して、四大綱領に含まれないものを一つ選びなさい。

- ア 工農を扶助する    イ 中華を恢復する    ウ 韃虜を駆除する    エ 地権を平均する

E 1934年、蒋介石の攻撃によって中国共産党が根拠地とした  が陥落すると、共産党軍は西方に向けて移動を開始し、陝西および甘粛地方に拠点を移した。のちに長征とよばれるこの西遷の途上で開かれた幹部会議において、毛沢東<sup>j</sup>は中国共産党の指導権を確立した。

問9 空欄  にあてはまる場所を一つ選びなさい。

- ア 遵義    イ 延安    ウ 西安    エ 瑞金

問10 下線 j と同じく1976年に死去した中国共産党指導者に関する説明として正しいものを一つ選びなさい。

- ア 軍人として長征、抗日戦、朝鮮戦争などで活躍し、文化大革命を積極的に推進した。  
イ 大躍進政策の失敗を克服するため国家主席となって調整政策を進めたが、批判された。  
ウ 1954年にインドのネルー首相と会談し、「平和五原則」を共同宣言した。  
エ 共産党の最高実力者として、四つの現代化政策や経済開放政策などを推進した。

〔以 下 余 白〕







